

佐伯史談会について

小野 英治

(会員 佐伯市弥生)

佐伯史談会に入会したのは昭和三十七年頃と記憶しているのですが、もう五十年が経過しています。

昭和四十年一月に羽柴弘先生によってガリ版刷り『佐伯史談』第一号。「新春初巡り」で羽柴・伊賀・片刈氏と大間地区(弥生大字大坂本・大字尺間)の古塔を探訪した記事があるが、三氏は既に故人とられました。

当時の会員八十余名中、現存者は十名程となっているのが今回の会長選考に影響したようです。若年で入会したというだけで、浅学非才は自覚して適任ではないことは承知しております。しかし、河野・松村両副会長と神田事務局長、古川会計担当とベテランが就任されたのでお引受けすることにいたしました。御協力願います。

佐伯史談会は、県下では活動の盛んな会として周知さ

れておりますが、これは諸先輩の献身的御労苦によるものであり、私達はこれを維持発展させていく責務があると考えています。五十年前と今日とでは会員数も二百八十余名と二百人増で会誌も活字印刷となりましたが、最盛期は三百余名でしたから減少傾向にあります。老齢化と死亡が主原因です。新会員を増すことが急務です。それには親しみやすい会でなければならぬと思います。故羽柴先生は『足で稼ぐ史談会』を強調されました。これは現在も「島めぐり」「八十八ヶ所巡拝」「三十三観音巡拝」等と継続され会員増につながっています。

佐伯史談会の規約第一条に「主として佐伯地域の地方史ならびに文化・民俗等について調査研究し、会員の教養を高め、地域社会に寄与することを目的とする。」とありますので、多くの調査研究成果を会誌『佐伯史談』に発表していただければ幸いです。

私達はプロの研究団体ではありませんので、誤りを指摘されても気分を悪くすることなく、それを好意として感謝する態度で対応し、温故知新で資質の向上に努めたものです。